

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	上田市	
施 設 名	上田市交流文化芸術センター	
助成対象活動名	公演事業・普及啓発事業	
内定額(総額)	27,798	(千円)
公演事業	18,198	(千円)
人材養成事業		(千円)
普及啓発事業	9,600	(千円)

(2) 平成30年度実施事業一覧

【公演事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	レジデント・カンパニー (2年目)による「プロデュース公演」	2019年1月23日・17日	演目：Rooney (新作) 出演者：鈴木ユキオ スタッフ：井上裕二(音響)、山田晋平(照明・映像)、安次嶺菜緒(アシスタント)	目標値	150
		大スタジオ		実績値	140
2	レジデントミュージシャンによるリサイタル・シリーズ(全6公演)	2019年2月11日 他	出演：仲道郁代(ピアノ) ショパン：マズルカ、ノクターン、英雄ポロネーズ、バラード第1番～第4番ほか	目標値	1,200
		小ホール		実績値	1,175
3	提携オーケストラプロジェクト Vol.8 群馬交響楽団 上田公演 - 2018 秋 -	2018年10月28日 他	出演：秋山和慶(指揮)、ルーカス・ゲニューシャス(ピアノ) ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第2番、交響曲第3番	目標値	1,000
		大ホール 他		実績値	696
4	提携オーケストラプロジェクト Vol.9 群馬交響楽団 上田公演 - 2019 春 -	2019年3月21日 他	出演：大友直人(指揮)、レジス・パスキエ(ヴァイオリン) ベートーヴェン：ヴァイオリン協奏曲、ベルリオーズ：幻想交響曲	目標値	1,000
		大ホール 他		実績値	519
5	提携オーケストラプロジェクト 名曲コンサートVol.4 名古屋フィルハーモニー交響楽団	2018年7月7日 他	出演：川瀬賢太郎(指揮)、小川典子(ピアノ) ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第5番「皇帝」、交響曲第3番「英雄」	目標値	1,000
		大ホール 他		実績値	595
6	劇場間連携事業・商店街連携事業 寺山修司没後35年記念書を捨てよ町へ出よう	2018年10月27日・28日	作：寺山修司 上演台本・演出：藤田貴大 出演者：佐藤緋美、青柳いずみ、川崎ゆり子、佐々木美奈、沼田実子、山本達久ほか	目標値	293
		小ホール		実績値	260
7	劇場間連携事業 父	2019年3月2日・3日	作：アリアン・ゼーレル 演出：ティエリス・ショー 出演者：橋爪功、若村麻由美、壮一帆、太田緑ロランス、吉見一豊、今井朋彦	目標値	320
		小ホール		実績値	530
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	4,963
				実績値	3,915

(2) 平成30年度実施事業一覧

【普及啓発事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	レジデント・カンパニー (1年目)による「WS & 参加型公演」	2018年9月23日・24日 他	演目：尼ヶ淵スケッチ 作・演出・監修・指導：土田英生 出演者：立川茜及び市民9名	目標値	180
		大スタジオ		実績値	280
2	アーティスト・イン・レジデンス 芸術家ふれあい事業(音楽)	2018年12月8日 他	出演：加藤文枝(チェロ) ■学校ク ラスコンサート・小学校5校・9回 ■7ヶ ティ・福祉施設等・2回 ■公民館・2 回 他5組	目標値	3,200
		中央公民館 他		実績値	3,364
3	平日マチネ ワンコイン コンサート シリーズ (全6公演)	2019年2月7日 他	出演：奥田なな子(チェロ) 他 ■上田地域定住自立圏協定自治体 (群馬県嬬恋村他)・5回	目標値	1,500
		小ホール 他		実績値	1,929
4	上田のアートな商店街 マチ × マチ フェス ティバル	2018年9月23日～11月4日	ブラック・トム・プラス・バンドライブ、演劇公 演「書を捨てよ町へ出よう」・ 作：寺山修二・上演台本・演出： 藤田貴大(マームとジプシー)	目標値	750
		小ホール 他		実績値	2,582
5	ラグビーワールドカップ 2019 文化プログラム イタリアン・アート・プ ロジェクト			目標値	
				実績値	
6	高校生が創る「実験的演 劇工房」	2018年12月8日・9日	演目：ハレハレ上田ver. 作・演出・監修・指導：守田慎之 介 出演者・スタッフ：市内高等 学校演劇班(部)25名	目標値	480
		大スタジオ		実績値	471
7	姉妹都市交流事業 実験 的演劇工房プラス	2018年8月7日～9日	講師：田上豊 参加者：豊岡市内の高等学校生 スタッフ：上田市交流文化芸術セ ンタースタッフ	目標値	80
		大ホール 他		実績値	85
8	夏休み子ども育成事業 子どもたちのチャレンジ 芸術工房			目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	6,190
				実績値	8,711

## 【妥当性】

### 自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

#### 『ミッション・ビジョン』

「『人にやさしい夢と未来を紡ぐ創造都市うえだ』の実現」を基本理念に運営。その根底にあるものを「育成」と捉え、文化芸術が育つこと・すなわち「人」が育つこと、特に次世代を担う子どもたちを、良質な文化的な生活環境の中で心身ともに健やかに育む環境を提供すべく、様々な事業を実施してまいりました。

これらの視点を踏まえ、平成30年度は「広域的な役割と連携・ネットワークの視点を持ち、『芸術的価値』『地域的価値』『社会的価値』『経済的価値』という4つの価値を創造する」というミッションを掲げた事業運営を行い、文化への投資がより広範囲な領域に影響を与え、文化芸術を起点として地域にインパクトを与えつつあります。

#### 『地域の特性・ニーズ』

開館から4年半が経過しましたが、外部機関による調査の結果、観客や施設利用者の総合満足度は高く、当館の事業をきっかけに文化芸術に興味を持ち、積極的に文化芸術に関わる市民が増加していることが明らかとなりました。「育成」の取り組みの中心となる「芸術家ふれあい事業」では子どもたちの行動の変化や能力を育む効果などのエピソードが挙げられ、ほぼ全ての学校から継続への要望が寄せられています。また、開館以来の経済波及効果は約50億円と試算され、地域経済の活性化にも寄与しております。

#### 『施設の強み・特色』

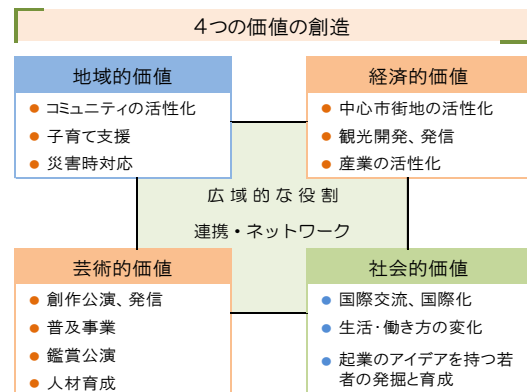
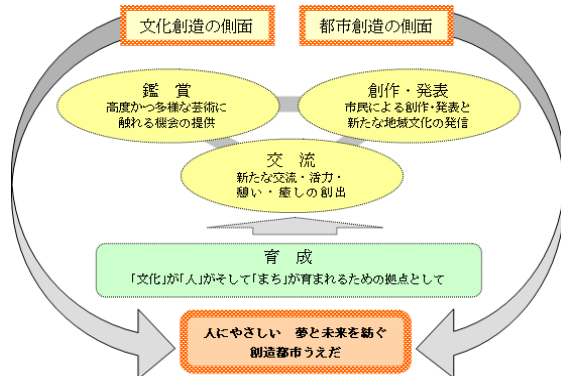
施設は建設段階から特徴を持った会場を目指し、大ホール及び小ホールは音楽に、大スタジオは演劇に適した空間としたことで、それぞれの特徴と合致した施設利用が行われており、大ホールは70.0%、小ホールは74.9%、大スタジオは62.0%の稼働率を算出しています。また、長野県、特に東地域の中核となる劇場としての活動も展開しており、当市並びに県の文化政策の一翼を担っています。

#### 『個別事業の企画内容等の構成要素』

劇場事業では、活動の中心となる「レジデント・アーティスト（芸術家ふれあい事業）」や「滞在型創造活動事業」及び「ネットワークプログラム」から「参加→体験→協働→鑑賞→発信」へと繋がる劇場の好循環を生み出すことで芸術文化の醸成に努めています。

#### 『計画変更の事象と要因』

演出家や出演者との協議の下、関連企画の拡充又は縮小を行った他、より効率的に事業を実施するために滞在スケジュールの見直し等を行い、より適切な事業運営を行ったが、承認を伴う変更も生じていることから、今後は可能な限り具体的な計画の策定に留意したいと考えます。



## 【妥当性】

### 自己評価

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

基本理念の実現に向け、劇場の活動においては「レジデント・アーティスト（芸術家ふれあい事業）」と「ネットワークプログラム」を中心に、多彩な事業を実施してまいりました。年間の総入場者数・参加者数・利用者数は約19万人であり、これは上田市の人口15.5万人を上回っています。観客アンケート調査の満足層の割合は97%であり、「鑑賞」「創作・発表」「交流」という運営方針についても、90%以上の支持を得ています。さらに、地域住民の生活の変化として、新たに文化芸術に関心を持ち、積極的に参加する市民の割合の増加が見られるなど、地域の文化芸術活動が活性化し、文化度の向上が促されています。

また、社会的・経済的側面においても、市内のみならず、県内広域・首都圏にもランドマークとして認知されることで、上田市のブランド力、シビックプライド等の向上に寄与しつつあります。開館から3年半の経済波及効果は約50億円と試算され、同期間に投入された一般財源及び市債の合計約10億円の5倍に相当するなど、経済的にも地域に大きな効果をもたらしています。

今後も、基本理念及び運営方針に基づきさらなる事業展開と運営努力を続けるとともに、広域的な役割を認識し、芸術・地域・社会・経済といった多面的な価値の創造に努め、公共ホールとして文化芸術の側面から地域課題の解決に寄与していく劇場として継続して事業に取り組んでまいります。

## 【有効性】

### 自己評価

目標を達成したか。

目標の設定にあたっては、地域のニーズ及び劇場音楽堂としての重点項目を踏まえ、「中心市街地の活性化と観光産業の発展」「国際交流&国際化」「創作・発信～新しい価値観の創造と発信～」「社会的役割に基づく活動と経済波及効果」の4項目を設定しました。

「中心市街地の活性化と観光産業の発展」・・・

「マチ×マチフェスティバル」等の事業において商店街等を会場に文化的活動を実施し、様々な方がアートを身近に感じることでできる環境を創出しました。「上田城紅葉まつり」等の既存のイベントの実施者と協力・連携して取り組み、市街地の活性化と観光産業の発展を図りました。

「国際交流&国際化」・・・

ラグビーW杯2019イタリア代表チームの公式キャンプを市内で実施することから、「ヴェネツィア室内合奏団」による公演及び高校生との交流事業を実施しました。（事業所管が別部署となったことから助成対象外として変更を申請）

「創作・発信」・・・

劇場での創作活動を通じて、新しい価値観の発信に努めました。演劇・ダンス事業では土田英生氏（MONO代表）による市民参加公演「尼ヶ淵スケッチ」、鈴木ユキオ氏による「Roomer」を上田オリジナル作品として制作しました。音楽事業においてもいわゆる買取型の公演ではなく、地域のニーズやアーティストからの提案を協議しながらプログラムや関連事業（アナリーゼワークショップ等）を制作しています。

「社会的役割に基づく活動と経済波及効果」・・・

外部調査の結果、開館から3年半の経済波及効果は約50億円と試算され、同期間に投入された一般財源及び市債の合計約10億円の5倍に相当するなど、経済的にも地域に大きな効果をもたらしています。

以上、これらの取り組みの結果、指標については概ね達成しつつありますが、入場率については減少傾向にあることから、入場者数の確保に引き続き努めてまいります。

### 【指標】過去3年間の推移

	H28年度	H29年度 (目標値)	H29年度実績	H30年度実績
空き店舗数（中心市街地）	31軒	29軒	37軒	29軒
まちなかアートスペース数（民間）	2軒	2軒	4軒	5軒
子育て女性コワーキング登録人数 (スキルアップ研修登録人数)	42人	49人	36人	34人
UJターン/若者定住就職人数	31人	35人	28人	49人
観光客数（年間）	721万人	500万人	509万人	467万人
外国人観光客数（年間）	8,227人	10,000人	12,303人	
商品開発・改良件数/新規就農者		5件/1人	5件/1人	16件/1人

## 【効率性】

### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。  
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

当初の事業期間の設定においては、先ず公演実施期間を設定し、その公演の魅力の発信やアーティストと市民との交流、観客への興味関心や訴求力を高めるための関連事業を取り入れる形で計画いたしました。

実際の事業実施では、当初の事業期間を基準としながらも、アーティストや事業に参加する市民（主に演劇・ダンスの作品製作事業）並びに関係団体との協議・調整を行い、より効果的・効率的な期間を検討し確定。

音楽事業においては、アウトリーチ事業も多く含まれるため、出演者とのスケジュール調整だけではなく、学校や地域の施設との調整を図り事業期間を設定。レジデント事業の場合は滞在が長期に渡る場合もあり、無理が生じることのないよう事業期間を適切に設定しました。

演劇・ダンス事業においては、商店街との連携事業及びプロデュース公演（上田オリジナルな創造事業）など、作品から派生する関連企画や創造から生まれる新たな発想や着眼点を重視し取り組むことで、作品や該当事業のアウトプットを強化できると考え事業期間を変更。

また、当初の事業費の設定においては、上記の公演実施期間及び関連事業を試算し設定いたしました。が、効果的・効率的な事業期間を設定し実施する際に事業費を変更。収支決算においては、事業費の削減に努めつつも費用対効果を考慮しながらアウトプットの強化に努めました。

## 【創造性】

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

公演事業の特徴的な取り組みのひとつとして、「提携オーケストラプロジェクト」が挙げられます。常設のプロオーケストラが無い長野県で、いかに市民に対して上質な音楽を楽しむ機会を定期的に設けることができるかが課題のひとつでした。

当劇場では、群馬交響楽団と連携を図り、オーケストラ芸術の魅力を最大限に伝えることを目指して、定期演奏会の招聘とそれに関連するプログラムの充実を図ってまいりました。この取り組みは、地方都市の新たなオーケストラとの連携モデルケースとして注目されています。

その他、公演の関連企画として「アナリーゼ・ワークショップ」を継続的に実施。出演者本人が公演前に演奏予定楽曲をそれぞれの視点で解説し、芸術の本質的な魅力を伝える試みが、クラシック初心者にとっては楽しみ方のヒントを得る機会として、そして劇場にとっては新たな観客を拡大する企画として、地域の文化芸術の振興にもつながっています。

また、普及啓発事業の特徴的な取り組みとして「芸術家ふれあい事業」が挙げられます。

この事業は上田市内の小学校全25校の全5年生を対象にした「クラスコンサート」、幼稚園や保育園、中学校や高等学校、高齢者介護施設等でのコンサートやワークショップ等の「アクティビティ」、そして、上田市内の全9館の公民館と連携して開催する「地域ふれあいコンサート」の3つのプログラムを軸とする普及啓発事業で、多様なアプローチで地域住民にアーティストと出会い、音楽を楽しむ機会を提供。

まず、地域でアーティストと出会い、演奏を鑑賞。そして、ホールに足を運んでもらい、ワンコインコンサートやアナリーゼ・ワークショップで興味や関心を深め、リサイタルやオーケストラ公演を享受してもらう。このようなフローのイメージで事業を計画し公演事業と普及啓発事業に関連を持たせることで「地域」と「劇場」を結び、それが観客の拡大にもつながっています。



アナリーゼ・ワークショップ



芸術家ふれあい事業(クラスコンサート)

〔劇場から 地域へ〕 芸術家ふれあい事業

クラスコンサート → アクティビティ → ふれあいコンサート

地域でアーティストと出会う

学校や公民館など、多様なアプローチで地域住民が音楽を教授する機会を提供します。

ホールに足を運んでもらう

ワンコインコンサートやアナリーゼ・ワークショップで興味や関心を深め、リサイタルやオーケストラ公演を楽しんでいただく。

〔地域から 劇場へ〕

ミニコンサート

リサイタル

ワークショップ

劇場の  
好循環

アナリーゼ



## 【創造性】

### 自己評価

地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

長野県東信地域の文化拠点として、上田市のみならず「上田地域定住自立圏」に対しても文化の側面からアプローチ。中心市（上田市）と構成市町村（東御市・坂城町・立科町・長和町・青木村・群馬県嬭恋村）が連携・協力し「上田地域定住自立圏連携事業」を実施しました。

連携の内容としましては、中心市が出演者の手配、プログラムの検討、制作ノウハウの提供、演奏会場までの送迎などを行い、構成市町村が演奏会場、運営スタッフを提供するという形で、平成30年度は5市町村で実施。

これまででは地域医療、子育て支援、産業振興、道路整備などでの連携が中心でしたが、文化芸術の面でも定住自立圏内の市町村が連携して取り組むことによって、単独市町村では実施が難しかった実演芸術の鑑賞機会を増やし、それが地域の活性化と住民サービスの向上にもつながっています。これは直営館だからこそ担える役割のひとつとも言え、新たな定住自立圏事業として注目されています。

また、長野県が主催する「芸術監督団・ホールスタッフ向け研修会」や岩手県が主催するアートマネジメント研修会、一般財団法人が主催する研修事業「ステージラボ」への講師派遣や「公共ホール音楽活性化事業」でのコーディネーター業務など、他の地域や団体に対して、劇場の人材や新たなノウハウ等のアイディアを提供し、劇場が設置されている地域だけではなく、広く国内の実演芸術の振興、発展につながっています。

加えて平成30年度からは当館と公立大学法人長野大学の連携事業の一環で、大学のカリキュラムの中の「メディア芸術論」を受け持ち、館長をはじめ、劇場スタッフそれぞれが専門分野において講義を行いました。

その他、公演情報の発信や、劇場のミッションの発信のほか、実施後の事業についてもアーカイブコーナーを設けるなどし、劇場の取り組みが記録として蓄積されていくようウェブサイトの内容を充実させています。



定住自立圏連携事業（群馬県吾妻郡嬭恋村・北佐久郡立科町）



長野大学 一般教養科目「メディア芸術論」

## 【持続性】

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

上田市の直営となる当劇場の運営においては、一般行政職員と専門家の意思疎通、共通理解が強く求められます。行政職員と専門家がそれぞれの得意分野を伸ばしていただくだけではなく、不得意な分野の研修会等にも積極的に参加することで、相互理解の促進を図り、経験豊富な専門家と一般行政職員で構成される組織であることの特性を最大限に活かす運営を行いました。

#### 一般職員

- ・ 政策研究大学院大学 文化政策コースへの参加
- ・ 他施設や実演芸術団体への派遣研修
- ・ 各種アートマネジメント研修会への参加 など

#### 専門家

- ・ 一般行政職員向け研修への参加
- ・ 役職別職員研修への参加 など

新たに配置されたスタッフは（一財）地域創造の研修事業「ステージ・ラボ」や全国公立文化施設協会の「全国劇場・音楽堂等アートマネジメント研修会」へ参加。アートマネジメント人材として育成。

舞台技術者は、全国公立文化施設協会の「全国劇場・音楽堂等技術職員研修会」、新国立劇場主催の「舞台技術運用セミナー」、長野県舞台技術者協会主催による技術者研修会へ参加することで育成を行い、アートマネジメントスタッフと舞台技術者の両面から、ノウハウ蓄積、維持、強化を図っています。

ミッション・ビジョンを実践するうえで、職員の育成を重要な課題として捉えており、誰もが新しいアイデアを発信、チャレンジできる職場環境づくりを進めています。

また、経営に関しては、入場料収入や貸館収入などの事業収入、補助金や寄付金などの外部資金が、事業費の財源に占める割合が30%以上で、全国平均を大幅に上回り、安定的な経営を裏付ける資料となっています。

加えて、開館以来、劇場・音楽堂等間のネットワーク事業（劇場間連携事業）を実施し、作品制作や事業運営面での連携だけでなく上田からの企画提案やスタッフの派遣など、相互の情報共有やスタッフのスキルアップなどを実施しています。